



● 情報教育を、こどもの視点で確かめる

# D-project ワークショップのご案内

2002年からの小・中学校『総合的な学習』、2003年4月からの高等学校での『情報』教科設置という変革の中、各学校へのコンピュータ導入などハード面の体制が整っていく一方、授業の内容については、模索中の学校が多いのではないのでしょうか。巷で氾濫する情報ツールの中から何を与え、どう使っていくのか、適切で具体的な情報教育のビジョンが求められています。

情報教育の実践研究と普及を行う産学の協同プロジェクトD-projectは、活動の柱のひとつとして、全国各地でワークショップを開催しています。子どもの学びを見すえた明確なテーマのもと情報教育を実践している現場の教師が講師となつて、参加される先生方に生徒の視点で授業を体験していただく試みです。情報教育に携わる先生方に対して、アイデアやヒントを提供し、デジタルメディアの教育利用を考える絶好の機会になっています。私たちは、このワークショップを、教員研修に携わる皆さんと一緒により広く展開することで、小・中学校向けのパンフレット作りや、中・高等学校向けのCM研究など、D-projectの実践から生まれ、ブラッシュアップされたコンテンツを、多くの先生方と共有し、有効活用していきたいと考えています。

さあ、皆さんの地域でも、D-projectワークショップを開催しませんか!



## 『情報』の授業をデザインする実践力を身につけてください

学校に導入されたデジタルメディアは、その役割を十分に果たしていると言えるでしょうか。教師側がコンピュータやインターネットを特別視し、使用法を限定しているようでは、子どもたちに情報技術との偏った接し方を植え付けることになりかねません。子どもたちが情報活用の実践力を培う上で、コンピュータは当たり前の道具としてそこにあるべきものです。また情報教育はさまざまな教科の基盤でもあります。「D-project」では、情報教育の実践研究や普及を通じ、ちょっとした工夫でデジタルメディアを学習に活用できることをメッセージしています。私たちの活動の重要な柱であるワークショップは、単なる機器やソフトの使い方にとどまらず、授業での活用アイデアを提供し、先生方の実践力を育成していきます。授業展開や子どもの学習態度を想定し、参加された方は実際にコンピュータに触れながら、シーンに応じた具体的な活用方法を身をもって学ぶことができます。

より軽やかに、普段の授業のなかで必要に応じてコンピュータやプリンタなどを自由に使う。そんな授業をデザインするためのポイントを、このワークショップを通じて多くの先生方に体験していただきたいと考えています。



D-project統括/  
金沢大学教育学部教育実践総合センター  
助教授 中川 一史

主催 :D-project(デジタル表現研究会)

共催 :日本教育新聞社

協力 :学研「NEW教育とコンピュータ」編集部

# 7-17307P-LP-O-T

D-project ワークショップの内容をご紹介します。

## パンフレットをつくろう

**対象** 小～中学校  
**使用ソフト** Adobe®Photoshop®Elements

**模擬授業の流れ**

- 1 実際のパンフを見ながら、文章や文字、写真、色使いなど、表現の工夫を調べる。
- 2 グループに分かれてPRするテーマを相談。キャッチコピーや使用する写真、ページ構成などをワークシートにまとめる。
- 3 作成したワークシートに沿って必要な素材(写真・キャッチコピーなど)をグループで分担して制作する
- 4 画像編集ソフトでレイアウト作業。見せ方に工夫を凝らす。
- 5 プリントアウトして完成。作品のコンセプトや訴求ポイントをグループごとにプレゼンテーションし評価する。
- 6 全体で、作品の出来映えや実践上の課題についてディスカッション。

**内容**

グループに分かれてPRするテーマを選び、パンフレットを制作します。はじめに読者を想定した上でPRする対象の特徴を話し合い、その魅力をよりの確に伝えるキャッチフレーズや写真などを考え画像編集ソフトで読み手を意識しながらレイアウト。授業でグループワークを行う際の指導のポイントを確認しながら、作品のプレゼンテーションまで行います。実践の流れに沿った内容で、情報の理解、活用、表現などさまざまな学習効果を、児童・生徒の立場で体験できます。

**ポイント**

- 情報活用や情報理解能力に加え、国語や図工も含む幅広い表現力を育成するうえで有効な指導法を児童・生徒の視点から確認できる。
- 写真のレタッチや合成、文字との組み合わせなど画像編集とレイアウトのさまざまな機能を習得することができる。

**講師陣を代表して一言**

京都市立桂坂小学校 山本直樹 教諭

パンフレットづくりは情報教育に期待されるさまざまな学習効果を幅広く得られる活動です。テーマを的確に把握し訴求ポイントを考えるプロセスでは、情報理解や情報の取捨選択といった活動を体験できます。伝える相手を意識しながら構成を考え、写真やキャッチコピーを工夫してレイアウトする段階では、情報活用能力はもちろん、国語・図工的な要素も含めた豊かな表現力を身に付けることができます。総合的な学習への応用も考慮し、その学習効果と実践のポイントを子どもの目で確かめてください。

### 京都市立桂坂小学校のパンフレットづくり実践例

**1. パンフレット研究**

さまざまなパンフレットを集めて、どのような工夫がしてあるか考える。  
(色使いは? 写真・イラストは? 説明は? レイアウトは?)

**2. キャッチコピー研究**

いろいろな広告を見て興味を引き付けるキャッチコピーを集める。  
・キャッチコピーのタイプを見つける

- 五感に訴える ●パロディ
- 数字 ●だじゃれ
- 色 ●共感させる
- 音 ●呼びかけ・疑問
- 擬人化 ●比喩
- 顔を踏む

などなど  
・読み手を意識しながら実際にキャッチコピーを作ってみる。

**3. みさきの家パンフレット制作**

**【来年宿泊する4年生に伝えることを念頭において...】**

- ・みさきの家(5年生が宿泊学習に行ったところ)の魅力を話し合う。
- ・グループごとにキャッチコピーと説明文を考える
- ・パンフレットに使う画像を選ぶ
- ・レイアウトを考えて紙に書く(ラフデザイン)
- ・ラフデザインをもとにコンピュータでパンフレットづくり
- ・第一次版をみんなで評価
- ・反省点を話し合い、修正
- ・完成したパンフレットを4年生とみさきの家へプレゼント

## CMを研究しよう

**対象** 中～高等学校  
**使用ソフト** Adobe®Photoshop®Elements  
Adobe®Premiere®

**内容**

コンピュータを利用し広告(ポスターまたはCM)を制作する、情報AおよびCを意識した内容です。広告に盛り込むべき情報をグループで話し合い、レイアウトや脚本を決めて画像編集ソフトや動画編集ソフトを使って作業。写真や映像と言葉を合わせた幅広い表現力を育成する際のポイントを確認しながら、授業時に必要となる評価シートも合わせて作成、評価することにより、指導・評価両面の実践的なヒントが得られます。

**ポイント**

- 画像編集ソフトや映像編集ソフトを習得しながら、ポスターやCM制作を通して得られる情報活用能力や情報理解能力、表現力の育成などさまざまな学習効果を生徒の目線で体験できる。
- 実際に授業をする際の評価基準と評価方法を多角的に検証できる。

**模擬授業の流れ**

- 1 CMづくりの目的を確認し、必要な情報は何かをグループで話し合う。
- 2 発表時の相互評価に使用する評価シートをグループで作成する。
- 3 カット割り・場面転換・BGMの使い方など、参考となるCMを分析し、作業ワークシート(ラフデザインや絵コンテ)を相談して完成させる。
- 4 ワークシートに沿って、画像編集ソフトや動画編集ソフトを使って作業し、レイアウトや編集に工夫を凝らす。
- 5 作品のプレゼンテーションを行い、評価シートを使って相互評価を行う。
- 6 全体で、作品と評価シートに関するディスカッションを行う。

**講師陣を代表して一言**

富山県立大門高等学校 江守恒明 教諭

ワークショップでの制作物(ポスターまたはCM)は、研修のスケジュールや使用可能な機材などの状況に応じて変更することができます。講習では作品の他にグループ別に評価シートも制作し、好きなシートを選んで発表を聞き、実際に評価シートに沿って評価まで行います。この活動で得られる学習効果や指導のポイントを確かめながら、生徒の取り組みを的確に捉える評価法についても実践的なヒントを提供できると思います。

# ワークショップ開催の流れ

〔事前準備〕（開催ご担当の方）



## 1 開催内容を選定

D-project事務局と協議しながら参加想定者、規模に応じたワークショップの内容を決めていきます。

●このパンフレットに掲載の模擬授業をベースに、研修の時間や使用機材などを考慮しながら、最適なものにカスタマイズしていきます。



## 2 会場の設定、準備



## 3 参加者を募集



〔当日〕（参加者の方）

## 4 授業の狙い、学習効果、評価基準と評価方法を確認



## 5 生徒の視点で授業を体験

●講師の指導のもと、実際にパソコンに触れながら制作体験や実習を行います。

●使用するソフトの操作も同時に習得できます。



## 6 教師の視点で授業を評価

●評価基準のポイントごとに自己評価・相互評価をしていき、授業全体の評価を行います。



## 7 評価について参加者と意見交換

●講師と参加者が授業内容についての意見を出し合い、実践の際の課題や発展を探ります。

FAX **03-5696-6070**

アンケートにお答えください。

●このページのコピーを取って、FAXにてお送りください。

Q:今回ご紹介した2つのメニューのうち、どちらに興味がありますか

①パンフレットづくり ②CM研究 ③どちらも興味がある ④どちらにも興味がない

Q:情報教育に関する研修のありがたさについて、ご意見・ご要望をお聞かせください。

Q: D-project ワークショップについて

①開催したい ③興味はあるが今は開催できない。

②詳しく話を聞きたい (理由: \_\_\_\_\_ )

④必要ない (理由: \_\_\_\_\_ )

所属 \_\_\_\_\_

役職 \_\_\_\_\_

お名前 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

e-mail \_\_\_\_\_

ご質問、ご要望などは、D-project事務局までお気軽にご連絡ください。

〒134-0088

東京都江戸川区西葛西6-16-4エスぺランス

D-project (デジタル表現研究会)事務局 TEL:03-5696-6060/FAX:03-5696-6070/e-mail: workshop@d-project.jp